

主 題：恵みシリーズ3、神を礼拝する ～礼拝を拒む罪～
聖書箇所：ヨハネの福音書 4章1－26節

ヨハネの福音書4章、皆さんがよくご存じの主イエス・キリストとサマリヤの女性の会話を見ていきます。実は、この会話を通してイエスが為さろうとしたことは、この女性を救いへと導くことでした。そして、女性は救いへと導かれていきます。今から、ごいっしょにこの箇所を学んでいきますが、ここから皆さんは改めて主の偉大さに気付かれると思います。どんなにすばらしい神が私たちの神であるかということです。また、クリスチャンである皆さんは、どのようにしてこの福音を伝えていくべきなのか？イエスのその伝道から私たちは学ぶべきところがあります。また、この中にまだ主イエス・キリストの救いを受けておられない方がいるなら、今日はその機会を神はあなたに与えてくださいます。大切なこのメッセージを見ていきましょう。

イエスと女性の会話は私たちに大切な四つのことを教えてくれます。

A. 主の愛 1－9節

「:1 イエスがヨハネよりも弟子を多くつくって、バプテスマを授けていることがパリサイ人の耳に入った。それを主が知られたとき、:2 ——イエスご自身はバプテスマを授けておられたのではなく、弟子たちであったが——:3 主はユダヤを去って、またガリラヤへ行かれた。:4 しかし、サマリヤを通って行かなければならなかった。:5 それで主は、ヤコブがその子ヨセフに与えた地所に近いスカルというサマリヤの町に来られた。:6 そこにはヤコブの井戸があった。イエスは旅の疲れで、井戸のかたわらに腰をおろしておられた。時は第六時ごろであった。:7 ひとりのサマリヤの女が水をくみに来た。イエスは「わたしに水を飲ませてください」と言われた。:8 弟子たちは食物を買いに、町へ出かけていた。:9 そこで、そのサマリヤの女は言った。「あなたはユダヤ人なのに、どうしてサマリヤの女の私に、飲み水をお求めになるのですか。」——ユダヤ人はサマリヤ人とつきあいをしなかったからである——」、ここに「神の愛」が記されていると言いました。しかもその愛は、

1) 無条件の愛

9節の最後に「ユダヤ人はサマリヤ人とつきあいをしなかったからである」とあります。何かがあったのです。なぜ、ユダヤ人はサマリヤ人を憎んでいたのか？彼らは、

(1) ユダヤ教を捨てた人たちだったから

サマリヤ人は自分たちの居住区であるサマリヤにあるゲリジム山に礼拝の場所を設けました。そして、彼らはモーセ5書（創世記、出エジプト記、レビ記、民数記、申命記）だけを受け入れて、それ以外の旧約聖書のみことばはすべて受け入れなかったのです。その5書に関しても自分たちの翻訳があったのです。ですから、彼らはユダヤ教の教えを捨ててしまったということで、当然、ユダヤ人たちは彼らのことを嫌ったのです。

(2) 異教の偶像崇拝者たちと結婚したこと

ご存じのように、イスラエルは北王国と南王国に分かれました。北王国はアッシリヤによって滅ぼされ、多くの人たちはアッシリヤへと引いて行かれました。アッシリヤによる捕囚です。そのことが起こったのはBC722年だと言われています。私たちは、では、サマリヤやイスラエルにいた人たちすべてがいなくなったのかと思ってしまいますが、実はそうではなく、残っている人たちがいたのです。そして、そこにいろいろな人々が入り込んで来ました。つまり、真の神を知らないで偽りの神々を崇拝している人たちです。そして、彼らはそこに残されていた人たちと結婚したのです。そして、この地域に偶像崇拝が持ち込まれたのです。それがサマリヤ人です。ですから、ユダヤ人たちは彼らのことを嫌ったのです。

2) 主の選択

3節のみことばを見るとイエスは「ユダヤを去って、またガリラヤへ行かれた。」とあります。ガリラヤに行くためには二つのルートがあります。一つは、ヨルダン河の東側を通るルートです。ここを通ると時間がかかります。一番の近道はこのサマリヤの町を通るルートでした。でも、ユダヤ人たちはサマリヤ人を嫌っていたし、サマリヤの土地は汚れたところと思っているので、そこを通ろうとはしなかったのです。でも、イエスと弟子たちは違いました。彼らはそこを通って行くのです。なぜなら、イエスはサマリヤの人たちの必要を見ておられたからです。ユダヤ人であろうとサマリヤ人であろうと、すべての人々に救いが必要であることをイエスはご存じでしたから、わざわざその土地を通してその人たちにこのすばらしい福音を伝えられたのです。そこには全く何の偏見も差別もありませんでした。国籍が違っても人種が違っても関係ありません。イエスはすべての人を愛して人々にすばらしい救いを伝えら

れたのです。

サマリヤの女性がイエスを見た時、彼女はイエスがユダヤ人であることに気付いています。恐らく、イエスが来ておられた衣に特徴があったのでしょう。ユダヤ人のようにふさが付いていたから、すぐにユダヤ人だと察したのでしょう。そこで、「あなたはユダヤ人なのに、どうしてサマリヤの女の私に、飲み水をお求めになるのですか。」と問うのです。彼女は驚いたのです。

しかし、イエスがわざとサマリヤを通して行かれたこと、そして、このスカルの井戸で女性と話しをしたことには深い神の愛がありました。罪の中を歩んでいるこの女性をその罪の中から救い出し、すばらしい新しいいのちを与えるためだったのです。ですから、このサマリヤの町を通ったということは、イエスご自身が自ら行なった選択でもありました。別の選択肢もあったのですが、イエスは喜んでこのサマリヤを通して行こうとされたのです。霊的な必要をイエスはご覧になったからです。

私たち信仰者もしっかりと覚えなければなりません。私たちはこの地上にあっていろいろな国籍をもっています。しかし、私たちはイエス・キリストの救いに与った者として、天国に国籍をもつ者として生きているのです。国籍が何であろうと人種が何であろうと、私たちには関係のないことです。すべて神によって造られ愛されている者たちです。私たちもそのような愛を実践することが大切です。イエスはまさにその愛を実践されました。考えなければいけないことは、私たちはそのような愛をもって人々に接しているかどうかです。私たちは人々に本当にこの救いが必要であること、人々の霊的必要に何とか答えようと、そのような思いをもって歩んでいるかどうかです。私たちが覚えるべきことは、イエスが私たちに大変な命令を与えられたということです。「すべての造られた者に福音を語りなさい」です。これは私たちひとり一人に与えられた命令です。しっかりとその働きをしていかなければいけません。これは主ご自身が私たちに望まれたことです。そして、神はあなたを助けてその働きに用いてくださいます。

でも、もし、私たちが「できません」というなら、その不信仰は神の前において罪だということを覚えなければいけません。神がしなさいと言われることをしないのは罪だし、してはいけないことをするのも罪です。「すべての人に福音を語りなさい」、これは神ご自身の命令です。神の助けをいただきながらしっかりとこの福音を宣べ伝えていくこと、そのことを最初に教えられます。

B. 主の恵み 10-15節

二つ目に、女性とイエスとの会話は「主の恵み」を私たちに教えてくれます。10節から見てください。「:10 イエスは答えて言われた。「もしあなたが神の賜物を知り、また、あなたに水を飲ませてくれと言う者がだれであるかを知っていたなら、あなたのほうでその人に求めたことでしょう。そしてその人はあなたに生ける水を与えたことでしょう。」:11 彼女は言った。「先生。あなたはくむ物を持っておいでにならず、この井戸は深いのです。その生ける水をどこから手にお入れになるのですか。:12 あなたは、私たちの父ヤコブよりも偉いのでしょうか。ヤコブは私たちにこの井戸を与え、彼自身も、彼の子たちも家畜も、この井戸から飲んだのです。」:13 イエスは答えて言われた。「この水を飲む者はだれでも、また渴きます。:14 しかし、わたしが与える水を飲む者はだれでも、決して渴くことはありません。わたしが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠のいのちへの水がわき出ます。」:15 女はイエスに言った。「先生。私が渴くことがなく、もうここまでくみに来なくてもよいように、その水を私に下さい。」、まず、この箇所を見ると、「二つの水」のことが言われていることに気付きます。一つは「生ける水」であり、もう一つは「永遠のいのちへの水」です。

1. 生ける水

一番いい聖書解釈の方法は、文脈を見ることであり、また、その著者が書いた本の中を見ることです。イエスは「生ける水」についてヨハネの福音書の他の箇所でも話しておられないか？と…。実は、7章に書かれています。7:37-39です。「:37 さて、祭りの終わりの大いなる日に、イエスは立って、大声で言われた。「だれでも渴いているなら、わたしのもとに来て飲みなさい。:38 わたしを信じる者は、聖書が言っているとおり、その人の心の奥底から、生ける水の川が流れ出るようになる。」と、ここに「生ける水の川」とあります。しかも、それがいったい何なのかを教えてください。「:39 これは、イエスを信じる者が後になってから受ける御霊のことを言われたのである。イエスはまだ栄光を受けておられなかったので、御霊はまだ注がれていなかったからである。」、ここでは「生ける水」が「聖霊なる神」とであると教えています。

少なくとも、私たちは4章で見る「生ける水」は「聖霊なる神」という結論を引き出すことができます。

2. 永遠のいのちへの水 13, 14節

13節と14節に見る「水」、これはいったい何を指しているのでしょうか？見ての通り、ここには二つのことが書かれています。この「永遠のいのちへの水」は二つの働きをします。

1) 完全な満足を与える

「決して渴くことはありません。」とあります。イエスが伝道において私たちの最高の模範であることは、

イエスはこの女性の一番の関心事をご存じだったということです。彼女の関心は「水」でした。H₂Oでした。そして、イエスはその「水」のことからもっと大切なこと、すなわち、霊的なことを引き出しておられます。恐らく、皆さんも伝道されるとき、人々の関心を知ってそこから霊的なことへと話を向けていかれるでしょう？この永遠のいのちへの水はその人に完全な満足を与えます。普通の水、H₂Oを飲むとまた渇きます。ところが、「わたしが与える水を飲む者はだれでも、決して渇くことはありません。」と言われました。この「決して」ということばは「永遠に」ということです。ですから、イエスの約束は「わたしの与える水を飲む人は永遠に渇きを覚えることがない」です。

その人は永遠に満たされ続ける、その人は神が与える完全な満足をもって生きることができるのです。これが神の約束です。ですから、パウロはⅡコリント9：8で「神は、あなたがたを、常にすべてのことに満ち足りて、すべての良いわざにあふれる者とするために、あらゆる恵みをあふれるばかり与えることのできる方です。」と、このような働きを為さる神のことを言っています。ですから、パウロもそのことが分かっていたのです。神の救いに与った者には神はこの約束をくださったのです。私たち信仰者はどんなときにも心からの満足をもって歩み続けることができるのです。クリスチャンの皆さん、ぜひ、覚えてください。これは神のあなたに対する約束です。もし、あなたの中にその満足がないなら、あなたは神ではない別の方向を見ている可能性があります。こうして、みことばは私たちに、神はこのような祝福、約束を私たちクリスチャンに与えてくださっていることを示しています。

ですから、イエスはここで「わたしの与える水は、あなたが求めている渇きをもたらずようなものではなく、あなたに完全な満足を与えることができる水だ」と言われたのです。

2) 永遠のいのちを与える

イエスは「永遠のいのちへの水がわき出ます。」と言われました。この水は「永遠のいのち」をもたらずと言うのです。これは当然、H₂Oのことではありません。イエスが与えてくれる水は、私たちの心を満たしてくれて、どんなときにも満足をもって生きることができる、そういう生き方を与えてくれるだけでなく、私たち、その水を飲む者に「永遠のいのち」をもたらずものだという事です。そのことをイエスはこの女性に話されたのです。

ですから、「生ける水」にしても「永遠のいのちへの水」にしても、同じことを言っているのです。「救い」のことです。聖霊なる神によってもたらされる「永遠のいのち」、救いのことです。質問しますが、私たちはいつ聖霊なる神をいただきましたか？主イエスを信じて救われたときです。聖霊はあなたを救うだけでなく、あなたを生まれ変わらせるだけでなく、このようにすべてに満ち足りた生活をあなたにもたらしてくれるのです。

ですから、イエスがここでこの女性にお話になったことは、このようなすばらしい救いがあるということです。もう一度10節を見てください。「もしあなたが神の賜物を知り、また、あなたに水を飲ませてくれと言う者がだれであるかを知っていたなら、あなたのほうでその人に求めたことでしょう。…」とあります。明らかです。女性はイエスがだれであるかが分かかっていませんでした。もし、この方がだれであるか？後でイエスはそのことは明らかにされますが、この方が神であること、救い主であることが分かっていたなら、彼女のほうで救いを求めただろうと言われました。この救いに関してイエスは言われました。

「もしあなたが神の賜物を知り、」と。イエスはこの「いのちの水」は神からの賜物、ギフトであると言われたのです。あなたが一生懸命努力をして勝ち取るものではない、神が求める人に一方的に与えてくれるものです。だから、聖書には繰り返して「渇いている者はわたしのところに来て飲みなさい」と書かれています。「救いが必要です。どうぞ、私の罪を赦してください。」と言う者は神の許にいくなら、イエスの許にいくなら、この方が赦してくださる、そのことをイエスは話されたのです。イザヤ書12：3に「あなたがたは喜びながら救いの泉から水を汲む。」とある通りです。

C. 主の招き 16-24節

ここまで話した後、16節を見てください。女性はまだイエスが言っていることがよく分かかっていません。15節「先生。私が渇くことがなく、もうここまでくみに来なくてもよいように、その水を私に下さい。」と、彼女はまだH₂Oのことを言うのです。それをいただいたらもう汲みに来なくてもいい…？と。そのことを彼女はイエスに言ったのに、イエスは16節でこのように言っています。「イエスは彼女に言われた。「行って、あなたの夫をここに呼んで来なさい。」と。話が繋がっていないようです。すべてのことをご存じであり完全な主は確信の部分に触れていきます。16節から24節には「主の招き」が記されています。主がこの罪の中を歩んでいる女性を救いへと導いていかれるのです。

1. 罪の暴露 16-18節

この16節でイエスは彼女の罪を暴露しておられます。彼女の罪を明らかにしたのです。彼女自身に、主がもうご存じである彼女の罪に汚れた本当の姿をさらそうとするのです。自分の罪深さに気付かせるのです。「あなたの夫をここに呼んで来なさい。」と。そうすると、彼女はこのように答えます。17-

18節「女は答えて言った。「私には夫はありません。」イエスは言われた。「私には夫がないというのは、もっともです。18 あなたには夫が五人あったが、今あなたといっしょにいるのは、あなたの夫ではないからです。あなたが言ったことはほんとうです。」、イエスが女性を誉めているところが一つだけあります。彼女が正直だったことです。しかし、イエスは彼女の罪を誉めておられません。彼女は離婚と再婚を繰り返し、しかも、彼女が今生活をともしているのは彼女の夫ではなかったのです。つまり、世の中がどのように言おうと、同性は罪です。結婚していない者がいっしょに住むということは、聖書のみことばを見るなら罪です。みことばは明確にはそのことを教えてくれます。

・彼女は「罪の聖め」へと心が導かれていく 19、20節

イエスがここで為さったことは、彼女が不品行の罪を犯していることを明らかにされたことです。そして、彼女はその罪から聖められることが必要であることを示していかれるのです。

すばらしいことは、彼女はこのように自分の罪がイエスによって示されるのですが、彼女の応答を見てください。18節にイエスが罪を明らかにしたことが記されていますが、彼女はただ「先生。あなたは預言者だと思えます。」としか言いませんでした。罪が明らかにされるときいろいろな反応があります。言い訳をする者たちがいます。彼女もできたのです。「私は悪くないのです。私をだます男たちが悪いのです。」と言えたかもしれません。「私の生まれた環境が…」とか「私の生い立ちに問題があるのです。」という言い訳もできたでしょう。

でも、彼女はそんなことはしていません。罪の転嫁をしていないのです。だれかのせいにしていません。彼女はイエスから罪を指摘されたときに、そのことが真実であることを認めています。だから、面白いことが起こります。19節「女は言った。「先生。あなたは預言者だと思えます。」と、これは何を意味しているか？自分自身が隠していたこと、彼女は人と会いたくないのです。だから、暑すぎるからだれも来ない真昼に井戸へやって来るのです。その時間ならだれにも会わないことを知っているのです。自分の恥をさらしたくないと、彼女はそのように人々と距離を取って生活していたのでしょう。イエスが彼女の罪を明らかにしたときに「あなたは預言者だと思えます。」と言ったのは、私の隠れたすべてのことをあなたはご存じだから、初対面のあなたは私のすべての罪を明らかにしたから…と、彼女はこのようにしか言えなかったのです。

2. 罪の赦し 21-22節

1) 人間による赦し

20節を見てください。「私たちの父祖たちはこの山で礼拝しましたが、あなたがたは、礼拝すべき場所はエルサレムだと言われます。」と言います。罪が示された彼女はその罪が赦されたいと願うのです。彼女が考えたのは、自分が知っている方法での赦しです。つまり、人間による赦しです。

(1) 場所 : まず、彼女はイエスに場所を尋ねます。「どこへ行けば私の罪を聖めてもらえるのですか？」というのが彼女の質問でした。罪の赦しを得るために彼女はある特定の場所を考えるのです。「私たちはこのゲリジム山ですが、あなたたちユダヤ人はエルサレムだ言います。どこへ行けばいいのですか？」と。面白いでしょう。罪が示されて、その後、彼女はその罪の聖めが必要であることを確信し、どうすればいいのかとイエスに問い掛けているのです。

イエスはそのことを否定されています。それが21節に書かれています。「イエスは彼女に言われた。「わたしの言うことを信じなさい。あなたがたが父を礼拝するのは、この山でもなく、エルサレムでもない、そういう時が来ます。」と。どこの場所か？と尋ねた彼女に対して「場所ではない」とイエスは答えます。罪の赦しを受けるために、聖めをいただくために、どこか特定の場所に行く必要などないということを明らかにされたのです。

(2) 宗教 : また、同時に、多くの人々はこの当時、いろいろな宗教を信じていましたが、実は、そこには救いがないことをイエスは指摘しておられます。22節を見てください。「救いはユダヤ人から出るのですから、わたしたちは知って礼拝していますが、あなたがたは知らないで礼拝しています。」と、イエスはここでユダヤ人のことを話し、そして、サマリヤ人のことも話しています。

・ユダヤ教 : ユダヤ人は真理を聞いて知っているはずですが。旧約聖書があります。預言者がいました。また、「救いはユダヤ人から出る」とあるように、確かに、救い主は彼らの中から生まれて来ました。しかし、彼らはその真理を信じていなかったのです。確かに、彼らは礼拝をささげていました。でも、それは形式だけで心が伴っていなかったのです。イエスは繰り返して福音書で彼らを非難しておられます。見た目は熱心だったかもしれないが、心は頑なだったのです。そのようなイスラエルの心の様子を神はご存じであり、それゆえに、神はイスラエルを非難しておられます。たとえば、アモス書5章にそのことが記されています。5:21-23「:21 わたしはあなたがたの祭りを憎み、退ける。あなたがたのきよめの集会のときのかおりも、わたしは、かぎたくない。:22 たとい、あなたがたが全焼のいけにえや、穀物のささげ物をわたしにささげても、わたしはこれらを喜ばない。あなたがたの肥えた家畜の和解のいけにえにも、目もくれ

ない。:23 あなたがたの歌の騒ぎを、わたしから遠ざけよ。わたしはあなたがたの琴の音を聞きたくない。」と。つまり、神は様々な礼拝をささげているイスラエルに対して、聞きたくない、あなたがたの賛美も、あなたがたのいけにえも私は嫌うと言われます。なぜですか？その行ないだけを見ると立派に見えますが、問題は心だったのです。そのことをこの後でイエスは話されます。

・サマリヤ : では、サマリヤ人はどうだったのか？「あなたがたは知らないで礼拝しています。」と、礼拝しているけれど、その礼拝は真理に基づいたものではないということです。確かに、熱心に礼拝しているかもしれないけれど、神の真理に基づいていない、人間の教えに従っていると言います。もしかすると、この中にも熱心にいろいろなものに手を合わせて来られた方がおられるかもしれませんが。問題は果たしてそれが真理かどうかです。真理だというものは山ほどありますが、私たちはそれを吟味しなければいけません。それが本当に神から出た真理なのか、それとも人間の教えなのか？を。

*なぜ、このサマリヤの人々の信仰が神に喜ばれていなかったのか？

その理由を考えると、どうしても覚えておかなければいけないことが一つあります。サマリヤの人々を導いたリーダーに問題があったことです。霊的リーダーに問題があったのです。だれが彼らを導いたのか？その人物は名前は出て来ないのですが、大祭司エルヤシブの子エホヤダの子の一人だと書かれています。この人が霊的リーダーだったのです。なぜ問題だったのか？この人物はホロン人サヌバラテの娘と結婚していました。益々混乱しますが、このサヌバラテはネヘミヤがエルサレムの神殿を再建するためにエルサレムに戻って来たとき、ネヘミヤの働きを邪魔した神の敵です。この敵であった人物の娘とこの大祭司の孫とが結婚しているのです。想像できます。どのような教えがサマリヤに広がって行ったのか？こういう人物が教えを説いたのです。

実際に、ネヘミヤ記 13 : 28 にはこの人物はネヘミヤによってエルサレムから追い出されたことが記されています。「大祭司エルヤシブの子エホヤダの子のひとは、ホロン人サヌバラテの婿であった。それで、私は彼を私のところから追い出した。」と。ですから、私たちは多くの「これが真理だ」という声を聞き、そのような教えに出会うことができるでしょう。問題は、それが本当に神の教えなのかどうかです。イエスが言われたこと、マタイ 15 : 9 に「彼らが、わたしを拝んでも、むだなことである。人間の教えを、教えとして教えるだけだから。』」と書かれています。神が求めておられるのは、神のおことばに沿って私たちが生きることです。だから、私たちはしっかりと神のおことばを見て、本当にこれは神が教えておられることかどうか吟味しなければいけないのです。神に喜んでいただくとするならこれは絶対条件です。

今日、私たちはイエスとサマリヤの女との会話を見ていますが、イエスは彼女を救いへと導いていかれます。救いに関しても、あなたが考えなければいけないことは、神は本当にあなたの罪を赦してくださいましたかどうかです。赦して下さったと思っ込んでいる人はたくさんいます。私たちがしっかりと考えなければいけないことは、本当に神は私の罪を赦して下さったのかどうかです。その疑問がある方はどうぞみことばをご覧ください。そして、この後、イエスはどうすればいいのかを教えてください。

私たちは罪を赦すことのできる唯一の神の教えを正しく知ることが必要です。人間はいろいろな方法をもって天国にいけると言います。でも、本当にあなたを天国に導いてくれるのは神だけです。その神の教えにあなたは立つことが必要です。イエスがここでサマリヤ人の礼拝を責められたのは、それが神の真理に基づいていなかったからです。

2) 神による赦し 23、24 節

今度は人の救いではなくて、「神の救い、神の赦し」が 23、24 節に書かれています。非常に大切なところ。:23 しかし、真の礼拝者たちが霊とまことによって父を礼拝する時が来ます。今がその時です。父はこのような人々を礼拝者として求めておられるからです。:24 神は霊ですから、神を礼拝する者は、霊とまことによって礼拝しなければなりません。」、何のことを言っているのか？もう一度、全部の文脈を覚えてください。イエスはこのサマリヤの女を救いへと導こうとされています。その中でイエスはこのように話されたのです。イエスは、どこか特別な場所に行けば救われるのではないかと思っている彼女を正しく導こうとされました。いろいろな人間の教え、宗教が人を救ってくれると思っている多くの人々に対して、そうではない、実は、これが神が備えた救いであると明らかにここで示されたのです。それは「霊とまことによる礼拝」、あなたの罪が赦されるために、あなたが救いに与るためにはそれが必要だと、そのことをイエスは女性に教えるのです。先に見たような、自分勝手な礼拝ではなくて神が喜ばれる礼拝です。そのことがここに記されています。

*「霊とまことによる礼拝」が罪の赦し、救いのカギ

(1) 礼拝 : ここには「礼拝者」「礼拝」「礼拝者」「礼拝」「礼拝」と「礼拝」ということばが繰り返されていることに気付かれるでしょう。礼拝とはいったい何なのか？その定義は「神に対して栄光、誉れ、感謝をささげること」です。礼拝とは神にささげるものです。なぜ、「栄光と誉れと感謝をささげる」のか？この神だけがそれらをお受けになるにふさわしいお方だからです。一つの例を示しま

す。それは、天使たちがどのように神を礼拝しているのかというその姿です。黙示録の中にそれが出て来ます。4：8－11をご覧ください。「：8 この四つの生き物には、それぞれ六つの翼があり、その回りも内側も目で満ちていた。」、これは天使たちのことです。これは天使の中でも「ケルビム」と呼ばれる天使のことです。そして、「彼らは、昼も夜も絶え間なく叫び続けた。「聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな。神であられる主、万物の支配者、昔いまし、今いまし、後に来られる方。」と賛美している様子が書かれています。その後9節「また、これらの生き物が、永遠に生きておられる、御座に着いている方に、栄光、誉れ、感謝をささげるとき、」と、これが天使たちが為しているわざです。この聖い天使たちはこうして神に栄光を帰しているのです。こうして神を礼拝しているのです。「栄光と誉れと感謝」を神にささげているのです。そして、その様子を見ている二十四人の長老たち、これは救われた者たちの代表ですが、彼らは何をしているのか？10－11節「二十四人の長老は御座に着いている方の御前にひれ伏して、永遠に生きておられる方を拝み、自分の冠を御座の前に投げ出して言った。：11 「主よ。われらの神よ。あなたは、栄光と誉れと力を受けるにふさわしい方です。あなたは万物を創造し、あなたのみこころゆえに、万物は存在し、また創造されたのですから。」と、こうして彼らは神を礼拝しているのです。

そうすると、礼拝とは何かをもらうことではないのです。彼らは神を誉め称えているのです。皆さん、覚えてください。「礼拝とは神に対して栄光、誉れ、感謝をささげること」です。その定義に立つなら、礼拝はクリスチャンしかささげることができないことに気付かれるでしょう？なぜなら、本当に神に感謝している人、神によって為されたみわざを感謝しているのは私たちクリスチャンだけだからです。ですから、この「礼拝」と「救い」は同意語です。イエスはこの女性にこうして救いを示し、女性を救いへと招いておられるのです。イエスは女性に「神を礼拝する者になりなさい。これまであなたがたは自分勝手な礼拝をささげていた。でも、神が喜ばれる礼拝をささげる人になりなさい。この救いを受け入れなさい。」と言われます。

特に、皆さんに注意していただきたいのは、ここに二つのことばが出て来ることです。

* 「主がお喜びになる礼拝」、二つのこと「**霊**」と「**まこと**」

・「**霊**」：この霊は神のことではなく、聖霊のことでもありません。ここで言われているのは「人間の霊」のことです。別の言い方をすれば、「心」のことです。つまり、もし、あなたが神に喜ばれる礼拝をしようとするなら、大切なことはあなた自身の心だと言うのです。今まで見て来たことはどうでしたか？確かに、行ないにおいてはすばらしかったかもしれない。でも、大切なものが欠けている、それは「心」です。イエスはここで神を礼拝する人、神が喜ばれる礼拝をささげる人は、その心が神の前に正しくあることと言われます。皆さんもよく覚えておられるように、第一の戒めとして教えられていることは「心を尽くし、思いを尽くし、知力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。」です。ただ、「神を愛します」と口にすればいいということではありません。心から、うちなるすべてをもって神を愛しなさい、それが神があなたに与えておられる命令だと言います。神が望んでおられるのはあなたの心です。あなたがどのような心をもって礼拝をささげているかどうかです。

・「**まこと**」：もう一つは「まこと」です。これは「真理、真実」という意味があります。ですから、あなたのささげる礼拝は神の真理に基づいたものでなければならぬのです。先に見たのは自分勝手な礼拝でした。でも、神がお喜びになるのは神のみことばに沿った礼拝です。神のみことばが教えるその真理に基づいた礼拝です。だから、私たちはしっかりと聖書を学ぶことが必要なのです。真理だけでなく、もう一つは「真実」です。つまり、神はあなたのささげる礼拝が偽善的なものであるならお喜びにならないのです。あなたが本当に心から神を崇めている、その心からなる礼拝をお喜びになるのです。

* 主がお喜びになる礼拝とは？

それは「神の真理によって刺激され、活気付けられた、心から湧き上がる神への称賛と崇敬」です。恐らく、皆さんも神のみことばを読んでいるとき、毎日のデボーションのとき、何度も経験されていることと思いますが、みことばが示している神の真理、そこに示される神の偉大さを見て、その場で「神さま、あなたはすばらしい方です。あなたは偉大な方です。」と思わず内側から神に対する感謝が出て来るでしょう。畏敬の念が溢れ出て来ます。そのような礼拝を神はここで教えておられるのです。機械的な義務的な形式的な礼拝ではなく、心から溢れ出て来る礼拝です。

ダビデ王もこのように礼拝しています。詩篇34：1「私はあらゆる時に【主】をほめたたえる。私の口には、いつも、主への賛美がある。」、なぜ、ダビデの心にはいつも賛美があったのか？神を見ていたからです。神を見上げるとき、そこには神に対する感謝が自然に生まれて来ます。だから、神はダビデを喜ばれたのです。同じように、63：3「あなたの恵みは、いのちにもまさるゆえ、私のくちびるは、あなたを賛美します。」、だから、「あなたの為してくださったすばらしいみわざに私はあなたを賛美し称えます。」と言うのです。16：2にも「私は、【主】に申し上げました。「あなたこそ、私の主。私の幸いは、あなた

のほかにはありません。」と神を称えています。皆さん「アーメン」と言えますか？「わたしもそうです。私の幸せはあなたです、神さま。あなた以外のところに幸せはありません。だから、あなたとともにいることが私にとっての喜びであり、あなたとともにいることが私の幸せなのです。」と、そのように主を称えていますか？ダビデはこのように主のすばらしさを仰ぎ見、神を称えたのです。このお方はその称賛に値する方だからです。

コラの子孫も神を称えています。詩篇43：4「こうして、私は神の祭壇、私の最も喜びとする神のみもとに行き、立琴に合わせて、あなたをほめたたえましょう。神よ。私の神よ。」と。私の最も喜びとする神のみ許に行くと言います。新約のヘブル書の著者もこのように言っています。ヘブル13：15「ですから、私たちはキリストを通して、賛美のいけにえ、すなわち御名をたたえるくちびるの果実を、神に絶えずささげようではありませんか。」と。この信仰の勇者たちは神の許にすることが喜びだったのです。神とともに歩むことが喜びだったのです。この方以外に何も必要としなかったのです。彼らはいつも神を見上げて、その偉大さを覚えて心から神を称え感謝していたのです。そのような礼拝を神はお喜びになります。心から湧き上がってくる礼拝です。それは神の真理が明らかにされることによって、私たちの心の中から出て来る神への応答です。

適用：皆さんにお尋ねしなければなりません。あなたは今日、主を礼拝するために来られましたか？あなたの心は、主への感謝と愛によって、崇敬と畏敬の念に溢れていますか？あなたは神とともにいることを心から喜んでいますか？もしそうなら、あなたは心から神が受けるにふさわしい賛美を感謝を礼拝をささげたはずですが、でも、もしあなたが、日曜日だから、来なければいけないからと、そのような思いでここに来られたのなら、そこに座っていても心は神に対して何の感動も覚えておられないでしょう？ただ、そこに座って時間が経過するのを待っているだけかもしれません。悲しいことに、そのような礼拝を神は喜んでお受けになりません。私たちが考えなければいけないことは、私の礼拝を神は喜んでお受けくださっているかどうかです。私の礼拝を神は喜んでおられるかどうかです。

明らかに、多くの私たちの先輩の礼拝を神は喜んでお受けになった、彼らの心が正しかったからです。

***では、あなたがそのような礼拝をささげるために必要なことを簡単に四つ言います。**

- (1) **救いに与ること**：救われなければ神に喜んでいただける礼拝をささげることはできません。神に背を向けている人が神に喜ばれる礼拝をささげることは不可能です。
- (2) **罪を常に主に告白すること**：罪をもったままで神を喜ばせることはできません。どんな罪でも主の前に告白して、そして、主を見上げることです。
- (3) **みことばを正しく学んで、主をより深く知ること**：みことばを学ぶ理由は、あなたの知識を蓄えてそれを自慢するためではありません。あなたを愛してあなたを救ってくださった神を深く知るためです。どんな神が私を愛してくださったのか？どんな神が私とともにいてくださるのか？それを知るためにみことばを学ぶのです。
- (4) **あなたを変えてくださる聖霊に常に満たされ続けること**：あなたを変えてくださる聖霊なる神に自分自身を委ねることです。「主よ、どうぞ、私を助けてください。」と。

ジョン・マッカーサー師はこのように言うおられます。「あなたの礼拝はあなたの聖書の知識によって影響される。」と。みことばへの理解が深まれば深まるほど、あなたの礼拝はよりすばらしいものになっていきます。みことばが私たちに教えてくれる礼拝とは、神を神として崇めることです。そのために、私たちは神がどのようなお方かを知ることが必要です。あなたがこの方を深く知れば知るほど、神が喜んでくださる礼拝があなたの内側から湧き上がって来ます。だから、みことばを知るのです。だから、主を知るのです。

私は信仰をもってしばらくしてから、確かに、礼拝のために教会に行っていました。でも、礼拝中はほとんど眠っていました。私だけでなく他のみなもそうです。なぜなら、その後続く奉仕のために休養が必要だと思っていたからです。路傍伝道に出掛けるとか、日曜学校があるとか、いろいろな奉仕があったから、休養を得るために礼拝中は休んでいたのです。メッセージは10分聞けばすべて分かりました。それでいいと思っていたのです。でも、感謝なことに、神はそれが大きな間違いであることをみことばを通して示してくださったのです。私は礼拝するために生まれ変わったのです。皆さんも礼拝する者として生まれ変わったのです。そして、私たちだけが神が喜んでくださる礼拝をささげることができるのです。この偉大な神を誉め称える者として私たちは生まれ変わり、この方を心から誉め称えることによって、この方が喜んでくださるのです。そのために私たちは今生きているのです。

皆さんの生活で礼拝はどの位置にありますか？礼拝をないがしろにしていますか？今話していることは日曜日のこの時間だけのことではありません。毎日の生活が礼拝です。いつも神を崇めながら生きるのですが、特に私たちは、神に賛美をささげたい、神を心から礼拝したいと思う者たちが集まって、

公同の礼拝を主にささげるのです。そのためには信仰者であるあなたの心が正しくなければなりません。正しい心をもって、あなたの心をご覧になっておられる神を崇めようと今日集まって来ました。どうぞ、主を深く知ってください。みことばがあなたに教えてくれます。そして、主を知れば知るほど、その主にふさわしい礼拝をささげるのです。心からこの方を誉め称えるのです。ご存じのように、私たち被造物によって称賛を受けるにふさわしいのはこのお方だけです。

皆さん、私たちはこの救いに与ったのです。神の恵みです。この方を誉め称えるのです。こうして神は私たちを生かしてくださり、私たちを使ってくださる、誉め称えるのです、この方を！私たちにこんなわざを為してくださっているからだけでなく、この方が神だから誉め称えるのです。あなたの心の中に神への渇きはありませんか？もっとこの方を知っていきたいという渇き、願わくは、私たちはその渇きを持ち続けたいものです。神を知ることによって私たちの生き方は変わって来るのです。礼拝者としての生き方です。そのことをイエスはこの女性に教えられたのです。イエスはここで「神を心から礼拝する者になりなさい。そのときにあなたの罪は赦されます。神はその礼拝に招いてくださっている。」と告げたのです。

D. 主の証し 25、26節

最後に、主の証しが出て来ます。どうして主イエスによって罪の赦しが可能なのか？25-26節「:25 女はイエスに言った。「私は、キリストと呼ばれるメシヤの来られることを知っています。その方が来られるときには、いっさいのことを私たちに知らせてくださるでしょう。」:26 イエスは言われた。「あなたと話しているこのわたしがそれです。」、何と祝福に溢れたことばでしょう！彼女はある知識をもっていました。必ず、キリストが来てくださること、私たちを罪から救ってくださる救世主が来てくださること、約束の救い主が来てくださることを信じていました。そのことを「知っています。」と言ったときにイエスは「もう、救世主は来た。私がその救世主だ。」と言われたのです。この方によって赦されるのです。この方によってすべての罪が赦されるのです。この方によって生まれ変わるのです。この方によって、神に敵対していた私たちが神の子どもとなり、神を礼拝する者へと生まれ変わるのです。なぜなら、この方は約束の救世主だからです。イエスは何と力強い証を為してくださったのか！

適用 : 神の招きに応じること

イエスは「わたしに来なさい」と言われます。まだ、この救いを受けておられない皆さん、罪の中を歩み続け主に逆らい続けている皆さん、神はあなたに招きを与えておられます。「わたしのところに来なさい。わたしが罪を赦す。」と。その権利もその力もこの方にはおありです。この方は神であり、この方は十字架であなたのすべての罪を負って死んでくださりよみがえられた救い主です。この方の前に救いを求めて今出て来ることです。あなたは生まれ変わります。

クリスチャンの皆さん、この方にふさわしく礼拝して来られましたか？あなたの心は本当に感謝に溢れていますか？あなたの心はこの方に対する畏れに満ち溢れていますか？心からこの方を崇めていますか？もし、そうでなかったら今からこのように生きるのです。信仰者らしく、生まれ変わった者として、礼拝者に生まれ変わらせていただいた人は、それにふさわしく生きることです。そうして私たちはこの神の偉大さを神に感謝するだけでなく、人々の前に明らかにしていくのです。どうぞ、そのようにして生きていきましょう。なぜなら、こんなにすばらしい救いをくださったすばらしい神だから…。

《考えましょう》 : そして、だれかと話し合ってください。

1. 「生ける水」とは何ですか？
2. 「生ける水」と呼ばれたのはどうしてだと思いますか？
3. 「生ける水」という神の祝福をいただいているクリスチャンが、そのように生きていないとしたらその問題は何だと思いますか？
4. 「生ける水」という神の祝福をいただいているクリスチャンが、それにふさわしく生き続けるためにはどうすれば良いと思われますか？